

人から人へ、バトンをつなぐ

甲寿園園長 狭間 孝

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

ご入居者、ご家族、職員の皆さまには、物心ともに甲寿園各事業を支えて頂き、新年にあたりまして感謝を申し上げます。

昨年5月、地域支援をメインとした“春フェスタ”を初めて開催いたしました。介護機



器展示・相談コーナーでは、地域の皆様に介護機器の説明を業者が行い、中庭では、厨房からカレーライス、おでん。私、園長手作りの焼きそば、たこ焼きを食べて頂きました。和のお茶席、洋のケーキコーナーを設け、午前中は、楽しく飲んで食べて春の陽気の中でゆっくり楽しんで頂きました。すずかけ作業所、トラピスト修道院に依頼してクッキーやはちみつ、石鹸などの販売コーナーを設置し、大変好評でした。午後は、あいあいホール舞台を中心に、フラダンス、ヴァイオリンとピアノのコンサート、大道芸を楽しみました。地域自治会長、地域住民、市内居宅介護支援事業所のケアマネジャー、他のデイサービスの皆様が参加して下さいました。地域の皆



さまからも賛同を得て、今後は、六甲東山麓地域での開かれた地域のお祭りに継続していきこうと平成26年度も5月に実施予定をしています。

甲寿園43年の歴史の中で、お祭りという形で、人と人をつないでいくことが実現いたしました。

9月1日“甲山 風のコンサート”と12月4日に実施“甲山クリスマスコンサート”は、150～180名の参加であり、企画から地域の皆様と会合を重ねて、地域



住民でもある元宝塚歌劇団の彩ひろみ様、ピアノ・佐伯準一様、ベース・吹田善仁様、ドラム・坂東等様の素敵なコンサートを開催することができました。



さて、私個人の事でございますが、平成26年4月に満60歳を迎えます。甲山福祉センターに奉職させて頂き34年が過ぎる事となりました。その間、多くの職員と出会い、失敗も多くなりましたが、様々な学びをさせて頂き、今も楽しく、充実した仕事ができていることに感謝したいと思っています。10年を一括りとしみますと私は、あと5年間で福祉の仕事の人から人へ、バトンを渡す事を心の一角に置き、働いていきたいと新年にあたり決意しています。

平成25年を漢字一字で表すと、甲寿園では「紡」（つむぐ）だと思います。地域の人とのつながりを表したいと思いましたが、世間ではどうでしょうか。この原稿を書いている今は、まだ、今年の漢字は発表されていません。

職員の皆さんに少し考えてほしい事を書いてみます。第1ですが、「老人福祉法」よりも「介護保険法」に私たちは注目しすぎているように感じています。当然、施設を運営しているのですから、収入の源となる介護保険法の動向を注視しなければなりません。いつの間にか「施設運営」は「施設経営」となり、「介護」は「介護サービス」そして、「入居者」は「お客様」となりました。

「老人福祉法」の第1条には「老人は、多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として、かつ、豊富な知識と経験を有する者として敬愛されるとともに、生きがいを持てる健全で安らかな生活を保障されるものとする」と基本理念が制定されています。「老人福祉法」から見て、今の老人福祉全般は、どうなのだろうと考える機会が必要なのではないだろうか。



第2は「無縁社会」「漂流社会」「避難難民」「児童・老人虐待」、新聞紙上に毎日、掲載されています。人と人とのつながりが希薄になってしまったのだろうか。

第3の事ですが、職員の皆さんは高齢者のことが大好きで人と関わり合う仕事を選んで下さいました。ご家族様、ご入居者様、ご利用者様からのお叱りの言葉を「苦情は施設の宝物」として誠実に対応して頂いています。しかし、今年は苦情だけではなく、日頃の介護に対する感謝の言葉をもっと大切に記録として職員全員が共有していきたいと思っています。**“Thankus Story”** つまり、感動的な言葉に共感できる職員集団を作りたいと思っています。

職員の皆さんにとって施設を安心できる環境、働きやすい職場を作っていくことは、ご入居者、ご利用者にとっても安心して暮らす事ができる場となります。働きがいを感じ続けられる甲寿園にしていくために皆さんの力をまとめていきたいと思っています。

平成26年の始まりにあたり、甲寿園園長として、又、法人の役員として甲寿園を更に充実させていくと同時に地域支援を大きな取り組みとしていきたいと思っています。

本年も職員一同力を合わせて奮闘いたします。ご支援を宜しくお願い申し上げます。

